

浮腫の方は血液の循環<sup>(環)</sup>障碍(これは一般的で下肢に多い)、血液異常(水血性、貧血性)、これは一部分的でなくて全身的なもので、妊娠性貧血が悪性貧血になると、中絶の外療法ない。此の貧血が浮腫の形であらはれる(特に手、指)。胃酸欠乏性貧血は、妊娠から起る貧血から胃酸欠乏症になるのか、胃酸欠乏のため妊娠貧血になるか、今のところ未定らしい。とに角並行して起る。爪に変化が起き、手の指先が痺れる。そして心臓が血圧のためでもなく苦しくなる、――と云ふのです。ぴつたり符合してゐます。

どうも私のは胃下垂と貧血から来るものゝ様です。あまり芳しい状態ではありません。あまりひどくなつたら血清療法でもする他ないとすると、妊馬も健妊婦も中々見つからないから、あなたの血をとる他ありませんよ。覚悟を決めていらつしやい。但し、これはぢよう談で、そんなになるとは思へません。出来る丈頑張つて、こらへるつもりです。今日は一ぺん手紙を書いたので、もうそれ程書き度くありませんから、つはりの話丈でおしまひにしませう。さようなら

一月十六日

今日は何と云ふ嫌な日でせう。空は灰いろ、ぼさ／＼した雪片が起きた時から落ちて来て、未だ落ち止みません。部屋の中ももうす暗い。炬燵の火はすぐこぼれる。何時も六時に入れた火は二時頃まで保つのに、今朝は十時に灰になりました。東京もこんな日でせう。昨夜は頭痛のため勉強は中止して、ミグレン<sup>(環)</sup>を服み、ぼんやりねころんでしまいました。徒然なるまゝ古い日記表を眺めましたら、妙な気が致しました。私共が一諸<sup>(環)</sup>に暮してゐた時は、一世紀も前の様に思はれました。二人の手でゴチャ／＼に書きこまれた温度、三度の食事、勉強、発信欄など見てたら、こんな時があつたのかなアと沁々妙な気が致しました。そしてあの当時は、あなたとか私とか区別なしの一体の生活であつたらしいファンイキが感じられて、今現在を思ふとき、淋しいと云ふのか、あきらめと云ふのか、冷めたい風の吹きすぎる様な思ひを感じました。私共の一体の生活は事実、一昨年の秋頃に終つてゐたのですね。疎解<sup>(環)</sup>は原因ではなくて其の結果であつたのです。それなのに私は七月末頃までぼんやりして、そんな事は思つても見ず呑気に、以前のまゝの延長だと思つてゐたのです。本当にさうでした。さうして事態がも早變つてゐる事に、おそまき乍ら気がついてあはてたのです。そして事態の変化を、あなたはよく知つて居り、変化に急速な拍車をかけてゐたのだつた(あなたが私に対する心持を固定化させてゐたこと)と知つた時、あれ以来、本当に私共の一体だつたと思つてゐた生活は、更に更に別々の方向に向つてゐたのですね。其の後のいろいろの起伏は余震の如きものであつたのでせう。私は一時的なびほう策を万全の建て直し

の如く妄想してゐたのではないでせうか。時々のもヒ注射効果を、健全になつたのだと思ひ違ひしてゐたのではないでせうか。私があなたの心持が變化した事をおぼろげに知つて、急速に其の対象をみつげ様とした事は大まちがひであつたのですが、それは特定の対象でなく、前者とサラマンドルの關係の如きものを、あなたが求めてゐるのかも知れない位の事はわかります。

何れにせよ、私はあなたの対象ではなくなつた事を知つて来ました。あなたが大きく成長しすぎた結果でせうか。だから眞実は、あなたと私との生活（二人一諸のため、より善くなる）は、も早終つたのではないでせうか。さうではないと思ひ度いと念じ乍ら、あくせく怒つたり、いら立つたり、あなたを責めたり（私が不幸な氣持するのは、あなたのせいだと云ふ風な）する事で、すこしでも終つたのではないと云ふ確信を得度いと願望してゐたのだつたと思はれます。さうした事は私にとつては悪い結果をより多く生む事になるとも思はず。

昨日頃からしきりと思はれる事は、さう云ふ事です。私にとつては、あなたとの生活は未だく／＼望ましいものであるに拘らず、あなたにとつては、私は邪魔、重荷、し方なしの負つてゆく荷物の如きものに変つて来たのではないでせうか。私はあなたの成長や發展を阻むものでしかなくなつた存在なのではないでせうか。私はそれがごまかしなしの眞実の姿であると思はれます。あなたはダ勢（ダシ）や憐（れん）びんから、私をいたはつたり、なだめたりせず、本当の心をきかせて下さる事は出来ませんかしら。

どんなに私が重荷でなくならうとしたところで、結局それ丈のものであつて（あなたにプラスになる存在ではなくて）、結局はある分丈づつあなたに犠牲をさせる事になるのではないか。いくらあせつても、よりよき伴侶であるのでなく、プラスにもならぬ、辛じてマイナスにならぬ程度のものにすぎないのではないか。さうして今後のあなたには、プラス的伴侶こそ必要であるが—さうでないものは不必要なのだ、こんな風に思はれます。私はひがんだり、すねたりしてゐる氣持はありません。ひがみもすねも相手に甘へ、相手に責任を感じさせ様とする種類の感情でせう。私は甘やかされる氣もなく、あなたに責任を押しつける氣は毛頭ありません。私の眞実のありようを見度いと切望してゐるのです。あなたの云ふ様に、あなたを私が信じないためでなくつて、私自身が私を信せず、私自身が私に自信ないためでせうと思ひます。責めはあなたにあるのでなく、あなたにふさはしくないことに、私の人間的内容の低劣さ、質のわるさにあるのであつて、其の事でああなたに嫌味やぐちをこぼしてゐるのではありません。此の点、どうぞ誤解（誤解）ないように。

で、其の様な私が、あなたの伴侶たらうとし、其のプライドを満足させ様とすると、現実の苛（げん）しやくくない姿は、私の氣

づかない二人の不均等をまぎ／＼と見せる結果を生むのだと思ひます。あなたが私に唯信じてゐてくれ、と云はれる時、結局私は其のあなたに値せぬ己を知りかけて、其の悲しみ、不まん足、やるせなさから、何の彼のとあなたを責め立ててゐたのだつたと思ひます。真実の姿、自分の本体を知つて、唯悲しみに捕へられました。―そして自信がなくなつたと云ひ、それはあなたのせいだと云ふ風に責を人にきせる事で、自己満足らしい思を味つてゐたのだつたらうと思はれます。そして現在、それまで解つて来ましたが、どんな馬鹿者でも、誇りを持ちますわね、それが彼を生存させるのです。自分が至極詰らぬ者である事を知れば、それが我からである時は、更に人は悲しみ嘆きますね、これは人間の当然のありようです。

私がかんな事を長々と書く事は、同情を求めてゐるのでせうか。さうではないと云ふ慰めを期待してゐるのでせうか。否、私の方の真実思ふところを話して、あなたの真実をたしかめ、その上で、公平な基礎の上、新しい出発を望むからだと考へます。私の不健康など、問題ではありません。あなたの甘やかし、慰めは、私を余計傷つけますわ。公平な客観を私は得たいのです。そして現在の私に、それ程必要な薬はありません。さうして私は私なりに立ち直り度いと切望するからに外なりません。本当に私を救ふものは、私の外ない事も知つてゐます。けれどもあなたも、それに手を貸して下さる事を、嫌とは云はないと信じます。私が悲しむべき真実を知ればこそ、私は本当に誤魔化し無しに立ち上れるのです。

風がヒューヒュー唸つて来ました。こんな手紙を書いてゐますが、私の心は外の雪空とは異つて、何だか明るいのです。では、心からなる卒直なお答へをまちます。 さようなら

幸子

### 謙一から幸子あて（一九四五年一月一六日の記）

一月十六日（火）晴  
久しぶりのお手紙が、やはり意気消沈のお手紙なので、案じられます。

あなたは暑さ寒さに特に弱いことから、こんな時はなほさら鳴かず飛ばず、冬眠して耐えて下さい。殊にあなたは一人の身体ではないのですから。身体の調子の悪い時はじつとして眠つて食べてゐれば、大ていは自然の恢復力に期待出来るものなのでせう。さうして冬眠してゐてくれたら、やがて僕の「プランテーション」と一緒に春が来るでせう。僕の

「プランテーション」は世界戦局と競り合ひの形だが、運がよければ危くすべりこみと云ふ所でせう。「外のものは放棄してもプランテーションだけは出しますよ。出なかつたら僕は腹を切るつもりだ」と鶴田君も云つてゐます。彼にしても始めは百頁ぐらゐの學術論叢の予定が、その五、六倍以上のものになつただけでも、此の紙不足の出版難の時代に大変だつたのに、悪戦苦斗(悪)のていでここまで来たのですから、僕とあなたとの次ぐらしい「プランテーション」の運命に切実な関心をもつてゐるわけです。時々電話が来ます。「グロヴ」の十二月号が此の廿日に出るので、すぐ持つて行きますと云つてゐました。「グロヴ」も軍関係のものだのに、十二月に出るのが一ヶ月以上もおくれてゐるので、今三月号の編輯会議をやつてゐるんだが、その頃に読み手があるのかなあと思つてゐるんですがね、さうつけ加へてゐました。「プランテーション」の定価は上ります。目下原価計算のやりなほしださうだが、八円か九円になるとのこと。

スメドレーは数日中に送ります（「ハ」さんの方）。外に「アンソニー・アドヴァース」を三冊（第三巻欠）買ったので送りませう。僕は今「オディシウス」です。いつも乍らほれ／＼します。ただベネロピの倫理がまだどうもはつきりしない。バルビュスの「地獄」は此の間うっかりいねちゃんとかへ忘れて来ました。

あなたが桃ちゃんと一緒に出来られないのは残念です。ピアノをきかせたり、新しい部屋を見せたりもしたかつたのに。僕は今月末か来月頃に、うまく行けたら、そちらへ行きます。あなたを元気づけに（尤も御迷惑をかけてはすまないわけですが）。本当は「プランテーション」と一緒に行きたいのだが。

あなたは「冬將軍」に対しては、ひたすら「奥地退軍」の戦略で、何にもせず本當に逼塞してゐなさい。必要な生活の風は、僕が適度に吹き送るから。大体身体の調子が悪くて氣持の弱つた時は、なるだけ氣持を内向きにせず外向きにしなさい。自分の内を見るより、外界を見るやうにしなさい。人間は、歴史の進行に蹉跌したり自ら歴史的足場を喪つたりすると、にはかに内向的になつて、それもたかふために自分なり自分の武器なりを見なほし、あらためなほし、きたへなほすと云ふよりも、むしろ外へ向つて来た氣持を、外の対象を失つたので狼狽して反射的に内へ向くと云ふ傾向があるが、之はよくない。之はその足が本當に歴史的現実の地についてゐなくて、観念的であつたために起る一種の混乱と自己防衛で、普辺(普通)を見失つてその普辺を更らに新たな地平へみつけ出さうとするのでなく、普辺を見失つた個別的自我を反射的に防衛する、個別的自我へ自己を閉鎖してふ傾向で、精神の萎縮、生活の萎縮以外の何ものをも齎さない。十九世紀以後の心理主義にもそれがあり、いつでも歴史的波の退き潮の時期に起るもの、個人の場合は、精神的

身体的生活的蹉跎に続いて起るものです。殊に精神が外界に対して運動に富む、いはば外向的な型の人間は、その外向的な精神の運動の何らかのテンポ喪失にも陥入るスランプだと思ひます。かう云ふ時は、つまづいた自己を正確に凝視し（感情や感傷なしに）、観念の上で個別的自我を一応棄却し、個別的自我を奥地退避させ逼塞させ冬眠させ、ぢつと穴の中へ身体をこもらせたまま、動くことをやめて、専ら精神だけを外氣にあたることです。外界を見ることです。今なんかは殊に世界の歴史を見ることです。世界の歴史は根本的に明るくて、今ほど進路のはつきりした時はないと云へるほどなのです。だから新聞と僕の手紙とだけ見てゐればよろしい。あなたが世界の歴史を見てゐてくれることを知つてゐれば、僕も安心して仕事に打ちこめます。スメドレーもバディーギンも「母」もA・フランスも一つの外界、歴史の現実として見なさい。僕が吹き送る生活の風も、一つの現在の外界素材のつもりで見えてゐて下さい。

A・フランスの現代史は近く送れるでせう。そんなにあなたの氣に入つてよかつたと思ひます。僕よりもはるかに深くあなたはA・フランスを理解してゐるでせう。僕もこちらでいゝんな人にしやべる時、しきりとあなたの書いて来た抜き書きを材料にします。「白き石」はそちらにあつたのなら、序の時に送り返して下さい。僕ももう一度読みたいから。「母」は、よく読んでみると一つの歴史的時代の人間のありかたの実に立派な形象化です。典型的情勢に於ける典型的性格の把握描出を含んでゐます。世界にあれほど典型的にその時代を描出した文学はないのです。肌ざりの荒さ、形象の観念的生硬等々は、過去の文学者の批評で、それらにも拘らず珠玉のやうに光る、いや全篇にみなぎりあふれる人間の姿、人間の生活と云ふもの、その愛情と眞実を読みとるべきだと思ひます。それこそは歴史と眞向うからとりくんだものです。あれは日本の一ころのやうな時代の波にのつていゝんなものが出て来た、さう云ふものではなく、むしろ歴史的に退き潮のもつともひどい時、反動期に、しかも従来のいかなる文学も、歴史的先進国の無数の文学も、眞向から問題提起しなかつた歴史のになひ手達の姿の問題提起なのです。

ゴオリからトルストイを経てゴリキーへ。「死せる魂」「検察官」↓「アンナ・カレニナ」「復活」↓「母」。ここに歴史がある。更にショロホフを加へると一層はつきりする。他処にはこれほどはつきりした歴史の文学的反映はどこにもない。フランスでもバルザックは凄くても、ゾラ、A・フランス、ローランとなると、やはり歴史の前進と云ふものがはつきり出てゐると云へない。ここでは豊富や絢爛はあつても、ゴオリの国のやうな明瞭な、まぎれのない「歴史」の感覚はあるとはいへない。さう云ふ所をしつかりと読みとるべきだと思ふ。

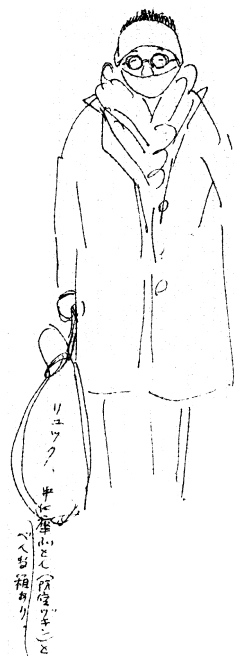
僕は何を読んでも、どうしても「歴史」と云ふものをはなれることが出来ない。いやはなれたくない。これは僕が歴史

家であらうとしてゐるからだらうか。それとも、もう僕の物の観方の奥底がさうなつてゐるからだらうか。僕は自分がふ意見をもつすべての人について、それらの人が歴史を知らないと感じる。僕が歴史を知つてゐるわけでは決してないが、この僕よりも歴史を知らないと感じる。歴史を知り、または歴史的な観方を自分のものにしてゐれば、あは云はないだらうと思ふのがしよつちゆうです。この頃特にそれが多し。そして僕が「歴史を知る」と云ふ言葉を使ふ時は、「人間を知る」と云ふことも含めてゐる。歴史とは大勢の人間のありかたに外ならないから。今朝も竹中、堀江両君、例によつて僕の所へあらはれる。戦局やその他の話題から、いつの間にか歴史へと話はすすんでゐる。

「菊池君の合衆国史また読み返してゐるがね。今度は逆もよくわかるよ。面白いよ。此の前の時は、ちよつとむづかしくてわからなかつたけどね。だけど、気取つてゐるね」「気取つてゐるよ。なるほど、さうかもしれないね」「書き方が気どつてるよ。併し本当に面白い。こないだ書いてたらう、金ちゃんへの原稿、あれ出来たら見せてくれよ」「よし、もう少しだ」「菊池さんの合衆国史で何にあるの」「アングロ・サクソン民族つて本なんだがね。あれからも少し僕の歴史も進んでるよ」「書いてくれよ。うんとくわしいのを書けよ。あれは面白くなるとすぐ過ぎて了ふだらう、つまらんよ。もつと長くうんと書いてくれよ」「さうですね。歴史の面白いのは書いてほしいね。あなたのアメリカ史はもう書けるんだらう」「いやまだ書けない。去年のプランティンションでも、歴史を書くつもりだったが、やつぱり書けなかつた。まだ僕の歴史的洞察は頼りないんだ。わからない所をわかる力が足りないんだ。政治や戦争になるとまだ駄目なんだ。もう十年ほしいな」。

それからアメリカ史について、プランティンションのあちらこちらで展開してゐること、独立戦争から南北戦争までを、二人に二時間近くしゃべつた。「面白いね。それを書けばいいぢやないですか」「そりや面白いんだよ、僕だつて実に面白いんだ。けどどやつぱり僕の力がまだない。歴史叙述はむづかしいんだ。歴史的なものとの論理的なものとのディアレクティブな統一に於て書くこと云ふことは、実際なみ大ていの能力ぢや出来ない。プランティンションは元來論理的なものなんだ。これを、歴史的なもの（具体的、個性的、形象的）と論理的（抽象的、普遍的、概念的）なものとの弾力的な交錯統一に於て、描出と説明との統一に於て展開したかつたが、やつぱり駄目だ。歴史叙述は科学であると同時に芸術でもあるべきだからね」「君の歴史はむづかしい言葉さへなければ、羽仁さんのやうだね」「さうか。むづかしい言葉も実は時勢で仕方ないんでもある。併し元來羽仁さんのやうな啓蒙家と学者との高度な統一は、まだく僕には及ばない





ことだ。僕には啓蒙するだけの人生体験も学問もない。竹中君に結婚の講釈をするぐらいいは出来てもね」「いやしかし君の話は、効果ないのぢやないよ。僕はやつぱりいつでも君の話をきいてよかつたと思つてゐるんだよ、本当に。そりや君の云ふ通りには僕は出来ないさ。でもやつぱり効果がないんぢやないよ。ただね。君のやうな思想家と、僕のやうな商売人のちがひさ。だけどね、本当に信じてくれよ。僕はいつもまじめにきいて、それを僕なりに自分のものにしてゐるのだから」。

歴史の話はいつかそんな所へ行く。彼がこんな話をしたり「調査会へは入つて一番意義あつたことは君の話をきいたことだよ、本当に」などと云ふ時は、決して彼の商人的なお世辞で云つてるのでなく、最もまじめなのです。之は多くのひいき目でみた感じぢやない。そしてまた彼がこんなに云つてくれるから、彼へいつまでもしやべると云ふわけでもない。

結局午前中、こうしてしやべつて了つた。原稿書くつもりだつたのだが。午後あなたの手紙が来て、この手紙を書きかけ、大分書いた頃、自動車の音が門の前にとまつた。誰かと思つたら理事長の時ならぬ来襲。大ていは電話で警戒警報が来てゐるのだが、今日は此の頃のB29のやうに警報より先に来た（今日のおひるのサイレンも、警戒警報がなりやまぬ中に高射砲がひびき出しました）。今日はここにゐた者は、二階は僕と西井君、下は竹中、堀江、八木、五人です。外に女子が二人（古田さんは風邪でずつとやすみ。芦野氏も風邪やすみ）。理事長は上北沢へ行つたついでによつたもの。二階の十畳で白髪爺さんが若いのをつかまへて、かしこまらせながらおしやべりです。専ら彼がロンドンにゐた前大戦の空襲の体験談。「自動車のお仕度が出来ました」と下から坂巻嬢が云つて来たのに、「ああ、どうもありがたう。

そのねえ、ツェペリン伯の大きいの何のつて。いつもはねえ非常にグラススなものなんだよ。ところが空襲に来た時は、ぼくらはでつかいいむしのやうに見えるよと云つたものだ。それがバクタンを落しほうだいに落して行くのさ。……」

話がいつはてるともなく高調してゐる時、またこつくと今度は坂巻嬢にしてはやや乱暴なノック。ひよいと僕があげると、男とも女ともつかない大きな

ラクダ色の、やけに着ぶくれた人間がぬつと立つてゐる。「あゝさうか。待つてよか」。理事長の姿を見てとたんにさう云つて、は入つて来かけた足を再び廊下へひつこめたのは、まぎれもなく伊藤新一君。左(前頁の左上編者注)のやうなかくこう。「なんだ。君か。ちよつとこつちの部屋で待つてくれ」「えらい人来てたんか。自動車とまつてるから誰やろ思てたんや」と隣の七畳へ入れる。間もなく理事長はそつくり返りながら階段を下りて行く。「こは夜は誰か泊るんかね」「ぼくが泊ります」「さうかね。それは御苦労さまですね。上田君は云つとつたよ。こないだは上北沢の分室のそばへ高射砲のかけらが落ちたんださうだ。今の所、本室が一番安全でせうなんて云つとつたよ。はははは」。

送り出して上へ上つて来る。「今かへりか」「うん、ちよつと早いんだ」「それはさうと君、アナトオル・フランスの現代史持つてゐたね。こつちにあるかい」「ああ、こつちにある」「そいぢや貸してくれんか、フラウが読みたがつてゐるんだ」「さうか。さうだね、奥さんからの手紙でフランス読んでて書いてあつたね。ぢや成城の方へ持つて来とこ。

僕から直接送らうか」「いやそれは気の毒だから、いいよ。外のと一緒に送るから、成城へもつて来といてくれ。それはさうと戦局は大分あれだね……」と、ここで一しきり世界の戦局。

「それにしても何か面白いはなしないか」「面白くないね。しかしこないだバリー島の男に会つたよ」「バリー島?」「うん、正月にね。友達の所で珍客を昼食に呼ぶから来ないかて云ふんでね。行つたんだ。すると実はバリー島の留学生が来るんだて云ふんだ。王族の息子で二十ださうだがね。ところがいつまで待つても来ないんだ。昼飯に呼んだのに、一時半になつても二時になつても来んのでね。ぼくらさきに食つて了つたんだ。そしたら奴さん、三時すぎてから来るんだからね。来たと思つたら、座敷でちやんと坐つてね。ミナサン、シンネン、オメデトウゴザイマスで云ふんだ。インドネシヤだけど日本語もうまいし、日本人と余りかはらんね。日本へ来て一年になるさうや。政治のはなしや社会的なはなしはせんね。食物の話や日常生活の話をしてゐると、ほんとに普通の日本人と同じや。ところがちよつと話してると、やつぱりどうも文明人ではないと云ふ感じやね」「ふうん。どんな風に」「いや、僕がドイツ人に日本語教へてたと云ふと逆も興味もつてね、日本語のこと、自分も習つてるさかい、いろく云ふんだ、漢字がむつかしすぎるとか何とかね。そこまではいいが、日本におぼけゐるか、ききよるんや」「おぼけ?」「うん。そいでね、日本には幽霊つてやつと、おぼけとがあつて、おぼけには狸ときつねとその他のぼけるやつがあつて、と云ふ風に云つてね、だけどこんなものが本当にある思てんのは、田舎の爺さんかばあさんだけや云ふたらね、私はやつぱりおぼけがあると思ふ云ふんや」「ふうん」「夜魚釣りに行つたら、光を見たとか、それに巫女のこと逆もふしぎがるんやね。向ふにも巫女つてやつある



らしいんや、フレンド・オヴ・ソウルつやつね」「それはあるだらうな」「大体向ふの宗教は小乗仏教やが、誰も仏教なんか信じてはおらん云ひよつた。やつぱり向ふにもインドのやうにカストがあつてね、一番上が坊主で次が王族やさうやけど、坊主なんかあかん云ひよつた。慾がふかくて金ばかりためよつてね」。そんなことを云ひながら、彼はもそく、何か封筒には入つたものをポケットから出したと思ふと、パイプへそれをつめてゐる。

「何だね、それ」「これ？ 松葉や」「普通の松葉？ 買ったんか」「いいや、成城の庭にはえてるあたりまへの松や」「それ吸うんか」「うん、しようない」「うまいか」「うまくないよ」「そんなもの吸つてたら、バリー島の青年に、どうも日本人と云ふ奴は文明人やないな、と思はれはしなかつたか」「うん、さう思つたから、バリー島の前ではよしといた」「どうもあはれだね。ぢやファーターへ送る分一箱めぐもう」「そりやすまんな。有難いよ。やつぱり松葉はまづいよ」「仙人にでもなるつもりならいいがね」「バリー島もやつぱり食うもんが一番困るらしい。向うは果物がぎょうさんあるやろ、こつちは何にもないからね。帰つたら日本の何を一番さきに話すかねてきいたら、にや／＼して答へなかつたけどね、きつと食ひもが悪くて困つたぐらい云ふんやろ。そのくせ昼飯に呼ばれながら、三時まで来ないんだからね。一時頃にその大東亜寮へ電話かけたら、十二時に出かけた云ふんや。三時間も何してたんや思たら、新宿まで来たらえらい人なんで、靖国神社へ参つて来た云ひよるんや。のんきなやつちや」「君がさう云ふんなら、よつぽどのんきなんだね、のんきの本家か」「そんなもんや。しかしね、ぼくの叔父が最近戦時病つてやつで死んだよ」「ふうん」「腎臓みたいにくんでね、顔なんかはれてた思てたら、あるあさ死んでたんや」「ぢや医者にもかからずにか」「うん。ちよつと具合は悪い云ふてたらしいがね、少しはれてると云ふだけで、外から別に大した病気とは思へなかつたらしいよ。寐込んだわけでもなしね。大体かたい人でね、やみはやらん、配給だけでやるちゆうて、本当に殆ど配給だけでやつたんや」「ふうん、そりやこわいね。僕なんかもこりや、或るあさ起きたら死んでたと云ふことになる可能性あるね。米となつぱばかり食つてたんぢやね」「うん、その可能性あるよ。とにかくだん／＼弱つて来てるからね」「どうも危いね。ぼくなんか、日曜の朝ぐらい死んでたら、空襲警報でも出て防空当番の誰かやつて来ない限り、うつかりすると月曜の朝まで発見されないね」「うん、結局やみでもして食はんとあかん云ふことや。君、いなご食ふかね」「食ふよ。何でも食ふよ」「そいぢや買へるかもわからんからわけようか」「うんたのむ」「ぼくんとこもね、こないだなんか、菜葉一切れもなくやつてね」「今ねぎが少しあるから帰りにもつて行けよ」「ねぎか、ありがたいな」。

五時に火を起して、僕は少しゆるめの雑炊をつくり、その上澄みの汁を彼にあたへる、と云ふのは彼は弁当をもつて来

てゐた。雑炊の中味は、ねぎとかぶとかぶらの葉。味は醤油少しと塩。「どうだ味は？」「うまい。この頃は何をくつてもうまい。今、周二夫妻が家へ加はつてね。周二のフラウもお産するんや。そいで付きそひみたいな女中が来てるやろ、その女中にまかしとくと米なんかむちやくちやに食ひよる。文三は一番いいよ。兵隊が何でも持つてくる云つてた。玉子でもとりでもいいもでもね」。文三君は千葉の軍隊にゐる。こんな風に硬軟とりまぜて三時頃から九時半までしゃべつてしまひました。ここに書いたのは書けることばかりで、あとは書けない、硬の方は。

プシはあれから電話が来ないが、十三日頃に辻岡さんが子供を疎開に福井へ行つた筈なので、福井から帰るころにまた行つてみるつもりです。本当にプシに会ひたいものです。だが大てい二階のとたんやねへ来ると云ふので、午前中の日あたりのいい時刻に辻岡さんの二階へ上げてもらふ外ないのです。プシを抱いてくることについて、いろいろ考へてゐます。歩く道を考へること、それにしてもおとなしく抱かれて来るかどうかよくわからない。自転車へのればいいが、或ひは竹中君を道連れにすることも考へてゐる。その間中いろんなことをしやべつてやらうと。それにしてもあなたが、僕がどんなに云つても、やつぱり僕のあなたへの愛情を信用しようとせず、プシを「一番私を成心なく愛してくれた唯一つの生物」だとか何とか云ふのも、僕はこだはるまいと思つても、やつぱりつまらない。あなたは僕を誤解ばかりして、ちつともわかつてくれない。だがその方の文句はよしませう。ただ、僕がこのままどうかなくなつて了つた時も、あなたは僕を信じてくれないですんだと思ふといやな気がするのです。

僕の生活は別にあつちこつちへ手をひろげてとんだりねたりはしてゐません。ただ、あなたの感情が、僕にどうすることも出来ないくらいによぢれて、僕を親切に理解しようとする気がまへがすつかりなくなつてゐるやうなことや、「プランテーション」が難航をづづけることや、交友関係でも森井さんのことや、竹中君のいわゆる「黒星づづき」や、それやこれやで、折角の冬期攻勢も進まないこと、猫のこと、食べ物のこと、一切の上にある戦局と僕の運命との切迫、すべてが僕の生活を暗くしてゐます。歴史のみが僕を明るくしてくれるのです。

あなたが僕のことをドン・キホーテに類推したのは當つてゐるのかも知れませんが、僕も去年の暮に同じことを思つて、森井さんへの手紙に書いたくらいですから。森井さんとは三日以来、十日に一度話したきりで、彼女が世界観努力と倫理努力とを混同し、どうも誠実でも素直でもないとはつきり思へて来たので、話す気もなくなりました。

あなたはいつても「おあまりのしぼりかすの定期便はほしくない」と云ふが、僕はずつと通じて、概してあなたへの手紙に最もエネルギーを使つて来た筈です。僕の生活の最も重要な部分をなして来た筈です。無論その途中には、他の人と

の話や交渉にエネルギーを集中したり、また原稿や読書に集中したりしたことはあつたが、通して考へれば、それらはすべて一時的だつたのです。僕はあなたへは遺言のつもりで書いてゐるのです。だけど書けないことは仕方ありません。一緒に居たつてすべてをしやべるわけでもないでせう。それに、手紙はひらかれたり、いろ／＼しますからね。とは云へ、僕の外的生活と内的生活の基本的なものは、あなたへの手紙に展開して来た筈です。これでも、これだけ書くのに少くとも三時間は要してゐるでせう。断続的ではあるが。そしていつでも同じ感情や同じ気持の状態にあることはむづかしいし、書くことのないことだつてあるのですから、しばらくかす／＼云はないで下さい。それより、僕へのあなたの感情のむすばれを解いてくれる方が、どれだけ僕を勇気づけ明るくするかわからない。あなたの手紙に、うらみがましい文句の全然ない、明るい調子の貫徹を早く見出したいものと、心から思つてやみません。

### 幸子から謙一あて（一九四五年一月一七日の記、一八日の消印）

一月十七日

No. 7、十三日附、十七日前10時に到着。同時に十四日附の九州からの手紙が来ました。東京の方が遠いのね。西山さんがおたん生祝に、田舎で何も買へないから、初ボーナスの中少々送ると云つてお金をよこしました。何も送つてあげる物が無いから、そちらで本室へ行つた折でも、彼女向の本を探して下さいませんか。お金を同封しておきます（かわせにしないから次ので）。

お餅ですこし肥つたとのこと、20日に又つく相ですから、固まつたら少々お送りませう。お味噌もお醤油もなくつちや、毎日三度／＼の事ですから困りますね。融通出来相な人はゐませんか？

小田中嬢の手紙、拝見、早速桃ちゃんの手紙の歴史を書留で送りました。住所もわかつてゐますから、小田中嬢宛、直接送りましたが、いけませんかしら。あなたが小田中嬢から卵だとかおさつとか時々貰つた相ですから、一寸一言お礼をつけ加へ、あなたのところへ近日お餅を送るつもりだから、食べにゆく様に云ひ添へて置きました。彼女の字と西山さんの字とそっくりですね。なんだか様子も似てゐるのぢやないかと想像しました。手紙の様子では、至極のんびりした人の様に思はれます。松本の人には珍らしいタイプですね。森井さんも松本の人ですか。長野、松本には、森井さん式の、もつと頑固な人が多いです。北信では大体藤村など、代表的な典型人物ではないでせうか。尤もそれは私の知つ

た範囲内の人ばかりです。どうして小田中さんのお手紙ばかり送つて下さるのかしらと思ひました。

ここは此のごろB29の通路に決つたらしく、東京へゆく時は必ず通ります。原宿にゐた時、佐々木さんか松岡さんかの夕方の水汲みの音ね、あれとそつくりの音がしますね。矢張り頭の上であれが唸つてゐる時は嫌な気持ちになります。それに二、三日前の地震以来、毎日30分に一度の割合で、小さいのや中位のや大きいのが来るので恐いです。空からも地からも驚かされ通しです。うるさいですね。

昨夕は脳貧血を起して、七時前にねてしまひました。ひるの中は石橋さんが来たり、早苗のお守りを云ひつかつたり、ヨ定は出来ませんでしたので、晩を当にして置いたのに。今日もまだ頭痛が残つてゐて、一寸不明朗の感があります。隣組の鷺見さんも羽生三七さんも皆、空襲が嫌だとしてこちらに戻つて来ました。飯田の方も疎解者の主人公がどんどん引きあげて来るので、家賃も売屋もうその様な値上りだ相で、便所の様な家さへも（南原さんの言葉）一万、二万とする相です。あなたは何時おるでかわかりませんが、其の頃には私達の住める家賃の家はないでせう。十二月始めの空襲以来、もの凄い流れこみ方だ相です。荷物も三日位で届く相です。お釜だのお鍋だのを背負つた疎解者が飯田駅に、電車の着く度に溢れて来るとか。

でも其の割に東京の人口は減つてはゐないのでせう。何処につまつてゐたんでせうね。不思議です。そちらが殆んど安全の様なら、此のごろの様な通路のこちらよりはましですから、仕事の都合と危険率との上での相談です。あなたもこちらにおゐでになる意志はおありなさらないでせうし、こちらにあなた向の仕事は殆んどないのではないかと思ひますよ。前の様に早く来てくれとは申しませんが、仕事の御都合次第になすつて下さい。家もないし、田舎の息苦しい生活はあなたには無理だと思ひます。話す友達もない、偏見と悪意に充ちた田舎程、人を痛め傷つけるところはありません。こちらに親類があつたり親のある人は別ですが、さうでない疎解者は三ヶ月位で又戻つてゆくと云はれてゐます。上伊那の方がまだましの様に聞いてゐます。先日、岸田さんの話もそんな点で大分嫌ならしく、田舎の人たちの排他性や偏見の事に就いて話したらしいです。

### 十七日夜

今日は午後からアメリカ史（六盟館の方）を読みました。中絶してゐたので、もう一度始めから読み返しました。今度のよく解ることと云つたら、前の時の1—10のエネルギイで進んでゆきます。矢張りプランテーションで苦しんだむく

①ひは充分ありますわね。殊にジャクソンの民主主義のあたりは、逆にプランテーションのあの分の説明式では（歴史的知識の不足からよく十分わからなかった）不まん足の様に思へたところ、今日は四のジャクソンの民主主義と西部膨張のところまでやりましたのでよくわかり、ジェファースンのそれとの相違もすこしわかりました。四の最後、カリフォルニアのゴールドラッシュが南北戦争に大きな影響あつた事は、リトルページの“ソ聯の10年”を読んだ時、一寸見まして妙な感じがして、一応あなたに聞いて見様と思つてゐたところでありました。

スターリンが米国経済活況の因をなした金の役割を引用して、米国西部に於ける産金が僅か数年間で米国の南北戦争の根本的要因となつた事を指摘し、多額の金を産出する事によつて、北部は南部をやすくとうち負かした。其の金鉱の発見は、米国西部の同地方の農業が一齐に開発されたことを指摘し、続いて道路、運輸機関の発達を指摘した。これがバイカル湖地方の金床発見に応用されて、新しい町の出現を生む事を二回程書いてゐます。覚えておるでせう。

話は逸れますが、<sup>原文</sup>S氏は何とすばらしい頭の持主でせうね。何か一寸読んでも主要点をピンと知つて記憶し、必要に応じて引き出して、徹底的な調査をして、新しい事実に適応させる。

さて此の調子なら七、八とかかつて中々はかどらなかつたアメリカ史も（二冊とも）、忽ち読みこなせさうですから、とても気を強くして来ました。さうしてつい手に一月中に時間の余裕あつたら、フアランドとアダムズを読了して、あなたとの比較に於て其の書き足りなさを見たり、あなたのアメリカ史及プランテーションに於けるオリヂナルな見方の再認識を試みたい、なんて野心を起して居ります。矢張りノオトをとりつつ遅々と進む歩みが結局は早いのですね。まる四ヶ月プランテーションに（事實は毎日出来なかつたので二ヶ月かも知れない）かかつた事は、一寸も時間の浪費ではなかつたことを知りました。

哲学ノオト（レ）をちよい／＼夜ねむる前に眺めてゐますが、内容はほとんど解らないと云つた方、正確であります。あの勉強に対する方法の暗示は非常に刺戟になる様に思はれます。矢張り、どんな偉い人でも随分苦労しつつ勉強するんです。さうして独自の方法を掴んで、一切をものにし、消化し、血肉として身につけて新らしい力に変へてゆくのです。『方法』と云ふものの大切さ一前にあなたからもききましたし、バルザックの事を書いてゐたクルチュウスでも暗示されてゐた一を、又一しほ深く知り得る様に思ひます。クルチュウスはややこしい言葉で、それを表現してゐた『方法』の発見も又、天才の仕事で、探究的組織的知能の理想概念としての『方法』とか、創造的思维的の共通機能としての『方法』とか云つてゐた様ですが、方法こそあなたの云つた様に目的よりも大切だと思ひます。此の自分独自の、

自分に適合した方法を掴むことこそ、何よりも大切な重大な事で、此の事に就いて新らしく勉強する毎に慎重に考へねばならぬと思ひます。段々とアメリカ史から離れて来ました。

ずっと読んでゐる中、何故だがモンロー宣言あたりから、ほらいよく出て来たと感じました。多分アメリカの帝国主義的なのはひの事かも知れないし。共和党と民主党についても、特に民主党何も知つてゐなかつたので、共和党内の共進的分派から生れたものだと始めてわかつたのです。後日、民主党内からプランターへの反抗として、共和党に走るものもあつたし、中々めんどうな形をとつてゆくのですね。南北戦争の後、共和党内の急進派が立派な役割をつとめるでせう。そして共和党から一民主党を作つた一急進的であるべき民主党が、南部の民主党第一主義的傾向になつてゆくでせう。全くめまぐるしい位です。

では今夜はこれで。桃ちやんがねむがつてゐますから、おふとんを敷きませう。

### 謙一から幸子あて（一九四五年一月一七日の記）

一月十七日（水）晴

今日はお手紙二通拝受。十四日付と十五日付。

身体の調子がややよくなつたとあるのを見て、僕も氣重もさが融ける感じがします。戦時浮腫なんかにならないやうに。せいぜい食事を努めてとつて下さい。あなたはどちらかと云ふと、大脳皮質と間脳との關係が原生的に敏感で、感情的な判断がそのまま生命中枢（間脳）の働きに作用して、之を多かれ少なかれ阻害すると云ふ傾向が強いから注意して下さい。なるだけ思考上の判断を冷静正確にし、且つそれを間脳の生命中枢へひびかせないやうに、所謂精神修養が必要です。身体の弱い人は特にさう云ふ意味の精神修養が必要です。また胎教と云ふ意味からも必要です。神経の訓練と世界觀の鍊成。

あなたがアナトオル・フランスを愛し、哲学の勉強を欲求するに到つたことは、あなたの世界觀努力、精神修養、胎教、健康保持の意味で喜ばしいことです。アナトオル・フランスは、繊細で感じ易い魂をもちながら、老齡と身体の脆弱のために、いつでも精神の平静、同情にあふれ激しようとしながらも常におだやかさを失はないこと、が必要だつたのではないでせうか。エピキュールやブロットオが必要とした、すべてを知り自らの運命をも知つてゐるものの達觀、さう



云ふものが必要だつたのではないでせうか。彼の寛大さ、おだやかさ、静かさ、しかも若々しい激し易い感受性との混交。プロットウとガムランとの混交。懐疑家の寛大さと革命家の激情との混交。今身体のよくないあなたは、A・フランスのその混交をよく味はふのいいのではないかと思ひます。どんな現実に対しても生き生きと同情し反応しながら、しかもいつでもおだやかなほほえみ(ほほ)を失はない態度。現実の荒波のすべてのゆりあげ、ゆりおろしに身をまかせずら、身体の平衡を失はないこと。すべてを見ながら、すべてを理解しながら、歴史への、人間への信頼と希望とをしつかりもつて、しづかにしてゐること。之が身体がよくなかつたり、老齢だつたりする人の一つの生き方なのでせう。身体が弱いと云ふことと老齢と云ふことは、「老齢」と云ふ言葉がいやにひびいても、やはり同じやうな意味をもつのです。どちらも現実の中へ直接たたかつて行く力が不十分だと云ふ意味で。あなたは春になればきつと身体を恢復し、たたかひの気がまへを恢復するにちがひないのだから。少くとも恢復するために、今は静観の必要があるのです。終局的勝利のために奥地退軍が必要な場合が多いやうに。

哲学の勉強には、先づ哲学史がいい。シュヴェグラーとフアレンドー(フアレ)、それから此の間持つて帰つた「フオイエルバッハ論」を先づ御読みなさい。羽仁さんのクロオチエ、それから「思想」の中の羽仁さんの「国学の限界」。スピノザの知性改善論。ヘーゲルの精神現象学（之は二巻までしかホニヤクがない。之は誰かにかけてあげます）。こちらにヘーゲルの小論理学があります。今時々見てゐるので、上述のものを読み終つた頃に送るか持つて行つてあげます。岩波の倫理学講座の中の西田幾多郎の論文、田中美知太郎の「ミユトスとロゴス」などもいいし、たしかどこかにあつた岩波の哲学講座の中の思想史（中世とルネサンスが林達夫、近世が羽仁五郎）、古在氏の「古代哲学」「現代哲学」などもいい。何れもそちらにあります。併し、シュヴェグラー、フアレンドー、「フオイエルバッハ論」、特に「フオイエルバッハ論」は必要です。之等をさきに見なさい。その次が古在氏のいい（小さい本。唯物論全書）。ME芸術論は今僕が見てゐます。之はその中送ります。僕は太分筋をひいたりしましたが、その筋にとらはれずにゆつくりお読みなさい。ドイツ・イデー……も必読です。何れもゆつくり読めば、よく考へて読めばわかります。哲学をやる場合も、文学を読む場合と同様に、いつでも歴史と結びつけて読むこと。何を読む場合にも、歴史を忘れないこと。上にあげたもの大部分は、哲学を歴史と結びつけて書いたものだから、特にいいのです。僕は哲学の勉強は之からです。尤も僕は何もかも之からなんだが。お手紙のカイン派と云ふのはよくわからないが、何に出てゐたものですか。ロマン・ローランの「キャレンツア伯」の

印度思想は、之もよくわからないが、十九世紀末の西欧文明の行きづまり（実は西欧ブルジョア文化の行きつまり、西欧ブルの歴史的自信の喪失の反映としての文化的行きづまり）に於て、「西洋の没落」思想、「アジアの光」思想、「西洋合理主義の行きづまり」と東洋的神秘主義非合理主義への憧憬、「ニイチェ主義、生命主義、行動主義、かう云ふもの一切と関聯あるものやうに思はれます。十九世紀末、ブル・インテリは、ブル自身の歴史的進歩性喪失（プロの歴史的前進、独自の抬頭に対するブルの反動化）を反映して、合理的なもの、歴史的なもの、普遍的なもの、前進的なものを否定しはじめた。丁度病気が太陽の光をさけるやうに、歴史の公道から故意に眼をそむけて、暗がりへ、個別的なものへ、病的なものへ、非合理的なものへ、エキゾチックなものへ、さもなければ「罪」意識や行動主義へ、超人主義へ、かくれるか、やけになるか、よそほふか、しようとした。芸術至上主義や唯美主義や不安の哲学や神話主義や、恋愛至上主義や享楽主義や、エン世主義や虚無主義や相対主義（スケプティズム）、野獣主義、印象主義、歴史主義（この歴史主義はランケ、マイネッケ、トレルチその他のもの）、すべてがさう云ふ社会的地盤の上に開花した。之は今までしよつちゆう云つて来たことです。ドストエフスキー主義も、トルストイ主義も、オプローモフ主義もさうです。之等一切は我々の精神的生ひ立ちの環境にみちて来てゐる筈です。そして之等一切は、此の前にも書いたと思ふが、十九世紀末から二十世紀初頭までは、まだ歴史的自信を喪失したブル・インテリの敗北の告白、自己の歴史的自信喪失の告白であつた。従つて、その歴史的役割はむしろ消極的であつた。ところが、この十数年来、即ちキャピタリズムの最後の危機の時代、FASCISMの時代には、それら一切は、キャピタリズムの積極的な反歴史の武器になる。FASCISMの積極的武器になる。だからこそ我々は自分の中にある十九世紀末主義の一切の残滓を峻厳に批判し識別する必要がある。その時、例へば、同じ十九世紀末主義と云つても、スケプティズム、行動主義、印象主義、「合理主義の反省」、生命主義等々には、一面の真理もあるので、その真理を夾雑物から洗ひ落し、歴史的なヒューマニズム、眞の合理主義で、裏打ちしなほす必要がある。別の言葉で云へば、M・Eイズム即ち唯物弁証法できたへなほす必要がある。更に別の言葉で云へば、十九世紀末主義の中からも我々は、栄養を吸収出来るのです。それらは、ブル・インテリの文化的遺産だから。遺産は遺産のままでは夾雑物が多すぎて害があるから、これを純粹の部分だけとつて、有益なものにせねばならない。そして、ドストエフスキー主義とかオプローモフ主義とかトルストイ主義とか、非合理主義とか、エゴイズムとか、享楽主義とか、厭世主義とか、俗流主義とか、まぎれもない反歴史的な反動主義は断乎と自他から清算せねばならない。それから更に、今や反歴史的な武器にされた反合理主義（神秘主義の獯猛なやつ）、非人間主義、反理性的行動

主義、ニイチェ主義（権力主義）等に対しては、最も容謝なくたかかねばならない。僕の世界観努力はすべてかう云ふたかひから成り立つてゐなければならぬのです。之が中々むつかしくて、うまく行かないのです。その為人から検事などと云はれもするのに。

所でロマン・ローランには、まだ十九世紀末主義の断片がずいぶん残つてゐるのです。アナトール・フランスの場合もあるが、ロマン・ローランの場合の方が、ローラン自身のありかたがA・フランスよりも説教者的とても云ふべき傾向が強いために、その残滓は有害であり得ると思ふ。ローランの方がずっとファンが多いですからね。ローランの人物の方が理想化されてゐる傾向が多いですからね。A・フランスでは、さう云ふ種類の理想化がないから、十九世紀末主義の残滓も有害さが少い。そのかはり、A・フランスよりもローランの方が、モニュメンタルな性格を創造し得た功績はある。キャレンツア伯の印度思想は、ローランの根本的に健全な思想のために、元のままの十九世紀末主義ではないが、そのニュアンスをやはりどこかにつけてゐるでせう。即ち「西洋合理主義の行きづまりの反動としての東洋神秘主義生命主義への憧憬」のニュアンスを。西洋合理主義の行きづまりは、理性の行きづまり、論理の行きづまりを意味するのでなく、従来ブルジョア的合理主義、機械主義、感性と切りはなされた理性主義、の行きづまりにすぎない。従つてその行きづまりは、眞の合理主義、眞の理性主義、眞の弁証法的論理に徹することによつて打解さるべきなのに、彼等は逆に反合理主義、感性主義、反論理主義（権威主義）等へ逸脱することによつて、折角の従来機械的合理主義に対する批判も、無益になつて了つた。

アンネットの中の「生命主義」「行動主義」「個人主義」「恋愛主義」「神秘的母性主義」等を批判すべきやうに、キャレンツア伯の「東洋主義」、アーシャの「行動主義」、また「ジャンクリ」の芸術主義なども批判されねばならない。「母」にはそれがいいでせう。だから、「母」はやつぱり、何と云つても新しい時代のものです。トルストイやローランが過去の文化の残照を含んでゐるとちがつて、ローランのガンヂーは読んでないのでわかりません。

あなたは下痢には注意せねばならない。戦時浮腫も慢性下痢、脱力感、食慾不振等を伴ふやうですから。ビタミン剤を積極的に摂り、食事もうんと啣んで、積極的にたべて下さい。ぼくの身体は芯が強いからいいが、あなたは、もつともつと自分の体質を知つて、それに対して積極的に克服の努力をせねばなりません。

あなたは、僕にとつて邪魔者であると云ふ風な命題に非常にこだはつてゐるが、それはいけません。あなたはその点で

現実を正確に見ずに、固執的で、自分で固定観念をつくり上げてゐる。あなたが僕の邪魔者だったと云ふことは、一時的に偶然的に事実だったこともあるけれど、それはあくまでも一時的偶然的だったので、僕が昨年にしきりに書いたやうに、結局はあなたは初めから今に至るまで、言葉の本当の意味で、僕を創造してくれた人だったのです。今でも、之からでもさうです。あなたは僕が、そのことをいくら云つても猜疑深くとりあげないで、僕が一時的に云つた言葉だけを固執的にとりあげ、固定観念にして、僕をいぢめ、同時にあなた自信をもさいなむのです。僕が昨年から、手紙でも、面と向つても、あんなに一生懸命に精力をつくして、あなたの僕にとつての大切さ、僕を創りあげて来たあなたの大きな意義、だからこそ「プランテーション」も、僕の一切と共に、あなたなしに考へられない達成であること、を云つて来たのに、どうしてそんなに意地悪く、うらみがましく、一時期の言葉に固執するのです。さう云ふことは、何の役にも立たない。二人の生活を創造的なものから退き戻し、エネルギーや感情や、健康をすら浪費し、本当にいけないことだのに。今日のお手紙で、さう云ふ固定観念を克服したやうに書いてゐるが、実際にはまだ克服しきつてゐない。まだいやみな、意地悪な、こ達はつた感情が、あちらこちらのあなたの言葉のかけにくつついてゐる。それがすっかりなくならない限り、我々の問題は解決しない。しかもそれをなくするのは、あなたのリアリスティックな観察と思量とのみです。僕がいくら云つても、あなたは僕を信じてくれないのだから。さう云ふ不信が、僕の創造的なエネルギーをどれだけ毀損してゐるかわかつてくれたら。逆にあなたの理解と信頼と愛情とが、僕の創造的エネルギーをどれだけ飛躍させるかをわかつてくれたら。

このことでは僕は、自分の言葉、口や手紙のあらゆる努力も効果のないことを痛感して来てゐるので、そのことに思ひ及ぶといつても憂鬱になるのです。問題はあなたの固執をあなた自身が、現実の正確な認識によつて解いてくれる外ないので。あなたが、自分をそんなに固執して僕の邪魔者だと云ひつゝのり、考へつゝのり、或ひはその固定観念をどこかにくつつけ残してゐる限り、実際に僕の創造的努力を阻害することになるのです。反対に、あなたがその固執をやめ、固定観念を解いたら、それだけで僕の創造的努力への参与者、最も有力で、不可欠な参与者になるのです。そのことを本当に理解して下さい。信じてくれとは云はない、理解してくれと云ひます。之は僕の心からの叫びです。

そのこととは別に、いや或ひはそれと決定的聯関があるのかも知れないが、あなたの云ふ僕に対する批難、「一方的なおしつけがましき、無理解、独善、利己主義」は、僕は自分で泣きたくなるほど不本意なだけと、形としてそんな風にあはれた至らなさを、承認しおわびします。あなたが今日のお手紙で、僕「に対する不信は消えて了」つたと云

ひ、また僕のあなたに対する「悪」一切を「私のつくつた観念であつたのでせうから」と云ひ、「もうそんなことは一寸も心にかからぬ気がします」と云つてくれて、一見問題は解決したかに見えても、そのすぐあとに「私はあなたを余りにも愛しすぎたからあまりにも多く求めすぎ、しかも思ふ様に与へられぬと云つて苦しんで来たのでせう。さう云ふ私の愛しかたが誤つてゐたのでせう。あなたの様に手広く四方八方愛情を注げる人はそんな事は思ひもよらぬことでせう」と云ひ、「これはヒナンでは」なく「羨望です」と云ひ、「私もさう云ふ風に人を愛したい」と云ひ、「あなた一人を求めすぎるために、あなたを苦しめ、自分を苦しめるのが、馬鹿げて見える」と云ひ、「これから少し考へかたをかへて自分が重要な存在のやうな、自分だけが中心でなくてはならぬやうな錯覚から早々に抜け出さなくてはな」らないなどと云ふ時、問題はやっぱり解決されてないのです。何故なら、問題はあなたの愛しかたが専一すぎた所にあつたのではなく、むしろ反対に、愛しかたの不充分（固執や固定観念、不信）にあつたと僕は思ふのですから。あなたが僕にとつて「重要な存在のやうな」「錯覚」にあつたのがいけないのでなく、逆にあなたが僕にとつていかに重要な存在であるかを充分認識してくれてゐないのがいけないと云ひたいのです。僕にとつてあなたが、過去・現在・未来を通じて決定的に重要だからこそ、僕はこんななままでくりかへしくりかへし、自分の言葉や論証があなたの固執に対していかに無力かを痛感しつつも、訴へやめないのです。そして僕がいちたしく、不機嫌に、あなたに「押しつけ」たり、信ぜよ信ぜよと宗教的ファナティクのやうに云ひたてたりしたのも、強引に疎開させる形をとつたのも、結局その僕の云ひたいことをあなたがそのまま受けとつてくれない、僕の意志が疎通しないために、しかも外的な情勢は迫り、仕事は進まないと云ふ風な事情のもとに、自分のあなたへのわかつてもらいたいことを外の形に表出する手段が見出せなかつたのです。それはたしかに悪い。だからあの時の僕の態度はどきども悪いと云つてゐるのです。けれどあとになつて説明して、かうだつたのだといくら云つても、あなたはやっぱり僕の云ふことを言葉通りに受けとらないで、不信を固執して来たのです。

僕は「プランテーション」が唯一一つの仕事でなく、「南北戦争」こそ最大の仕事です。その仕事の意義は「プランテーション」を書く前から、ここ二、三年前から自分に、自分だけに痛感して来てゐるのです。それをはつきりと疎外する、対象化する、即ち叙述することの困難と、しかも時局のうむを云はせない切迫との間にあつて、僕はもうあせりにあせつてゐるのです。自分の力の足りなさにも拘らず問題の重要さ。しかも僕のみがそれを出来ること云ふ自覚。之等は誰にもわかつてはもらへない。大勢の人に、何だか手当り次第と云ふほどいろんな人に、問題の外カクだけ話して、或る程

度わかつてもらへても、結局は僕がすっかり展開しなければわかつてはもらへない。しかもその展開の「うみの苦しみ」にあつて、中々容易にうみ出せない。「プランティション」はやつとうみ出したが、あれは序の口でせう。あなたにもわかるでせう、あの中に無限に、僕が展開せねばならないもののあることを。素描ですぎてゐることを。「合衆国史」以来書いたすべてがさう云ふ問題を、展開されざるままに含んでゐるのです。さう云ふものをかかへて、しかもいつ兵隊に行くかわからない僕の焦燥をあなたが理解してくれないと云ふのです。それを僕がうみ出す為には、あなたが必要なのです。あなたの大きな愛情が。あなたの深くて純一で理解に徹した愛情が。それが不満だから僕がこんなに苦しむのです。僕はあなたを僕の仕事のすまない理由に決してしてはゐない。反対に、あなたのありかたこそ僕には自分の力に余る仕事の原動力であると感じるのです。だから求めてやまないのです。だからあなたに強引に、乱暴に求めてやまないのです。あなたを求めただけでなく、あなたの僕への真の結合を、真の合体を、僕の仕事への合体を求めて求めてやまないのです。そしてこの求めかたが、この仕事の意義をあなたにすつかりわからせ得ない限りは、僕のエゴイズム、あなたへの無理解な押しつけ、独善、と云ふ風な形にもなるのです。之は自分のエゴイズムの合理化では絶対にありませんよ。だからこそ「プランティション」を読んでほしかつたのです。そして「プランティション」を読んでくれたら、わかってくれた時は、僕は本当に凱歌をあげたかつた。何れにせよ、僕の言葉は本当に無力です。「プランティション」そのものすら、僕の言葉の無力の証明になるのかも知れません。でも「プランティション」が片鱗（鱗）でしかないもの、「プランティション」そのものよりも、あそこに含まれてゐる僕の「問題提起」を読みとつて貰へたら。

こんな手紙はあなたを疲れさせるかも知れませんが、あなたの感情への思ひやりや、自分の反省も充分とは云へない書きぶりです。そしてこの調子が、あなただけでなく、竹中君や臼田君や森井さんからも、受けつけてもらへないものなのかも知れないのですが。でもまたくりかへしくりかへし書きます。それより、さしあたり、あなたの健康に、最善をつくして下さい。

幸子から謙一あて（一九四五年一月一八日の記、一九日の消印）

一月十八日

十四日夜附No. 8、十八日午後四時着、まる四日かかりますね。本当に此の頃、汽車の切符も始（初）んど買へないし、電話も



六づかししいし、手紙もまる四日、足かけ五日もかかるのでは、東京は唐てんぢくの様なものに思はれて来ます。前はまる一日で届いたものですのに。頼りないと云ふ気持がするではありませんか。具合が悪くて気の弱つて居る時、若し此の調子で、突発的に（たとへば、よくある長期間をおいての）高年の妊娠に伴ふ子宮外妊娠の破裂とか、流産とか、悪阻から起る心臓障害とか）悪くなつた時は、必ず電話も通じず、電報もうまくゆかず、たとひ届いても汽車のトラブル等のため、死目に逢へずに終るのではないかと、思ふ事もあります。そんな事は方に一つも起りつこないのせうが、具合のわるい時は凡てを悲観的に考へ勝ちのものです。あなたの手紙は日附の五日後に届いてゐます。一寸前までは四日目であつたのに、此の頃は概して五日目になりました。寒い雪の日などは、たいいてい郵便は来ず、翌日二本一諸に配達される事もあります。

私の手紙、四日届かなかつた訳は十三日附の手紙に書きましたね。貧血の時の様に、フラク／＼して起きてゐられず、字を書かうとすると目がまはつて吐き度くなるので、書けなかつたのですが、わざ／＼桃ちゃんに頼むのも大げさだと思つて。たいいてい起きて普通にしている時は、ろくでもない手紙でも必ず書く様にしてゐますから、届かなかつた時は、書けなかつたと思つて下さい。もう大体あのひどい峠は越したのではないかと思ひます。十二月中旬から此の十日すぎまでが、絶頂であつたのぢやないかと思はれる。大分落ちついた様ですから、此の調子が続けば、あとは夏にはいつてすい弱を注意すれば、順調にゆくと思ふのです。

なんだか気のせい(あ)か、妄者の状態から抜けて生気が出て来、むくみもずつと減つたし、手の指のとりの足の様な骨つばさも恢復して来た様なんです。おしりの骨はまだコキンとつき出たまゝで、厚着をして座つてゐても、座ぶとんに二ツの骨のあとがはつきり残ります。此の恐ろしいやせ様、四月頃どころぢやありませんの。目方を計つたら七貫もあるか、と思はれる位です。頬はこけ落ちるし、総毛立つた様な皮ふ、ぬげ上つたおでこ、大きいのは口ばかり。私がたまに郵便局などへ厚着をして着ぶくれて出てゆくと、裏通りの子供たちが肺病肺病と叫んで逃げてゆきます。材木屋のおぼさんたちのひそく／＼話で、私が肺病で五月にこちらに帰つて来て、来た当座はまあ人間並だつたが、此のころはとても悪さうだ。何処の亭主も皆、もう東京を引き上げて来てゐるのに、石井の娘は疎解(お)と云ふより肺病で帰されたんだから、亭主などよりつきませんのだ。此の冬中越せればもうけものだ、と云つてゐた相ですわ。お母さんが其の事をチラときいてひどく気にして、来る人／＼に私の事を、これは胃下すいがあるからこんな風だ、肺病とか云つてゐる相だもつての外だと弁解してゐます。かまはんぢやないのと云つても、ゴウ(う)が湧くと云つて、お前がキチンとせんからだ、フラ

く歩きをするからだ、外へ出るな、なんて私に怒り出す始末、ほんとに喜悲劇(マヤ)ね。

それもまづ今月末位には抜け出せ、人並(?)になれるでせう。本当にいろいろ心配させたり、わるい手紙を書いて嫌な思ひをさせましたが、もう大丈夫だと思ひます。心配せぬ様。すこしあぶない様なら、大げさでも前もつて様子を知らせて置きますから、お忙しいでせうが、其の時は来て戴き度う存じます。さて健康状態の報告はこれで終ります。

お父さんは四、五日前から大分恢復して、又病院が始まりました。東京も流行性の悪質の感冒が流行してゐる相ですから注意して下さい。鼎も流行して一家中枕をならべてねてゐる家も随分あります。死んだ人も(これは肺炎を併発)三、四人あります。お母さんも怪しいのに、頑張つて働いてゐます。休む様に云つても、きゝませんの。自分が休めば、家中の行事が停止する様に思つてゐるんです。ふうちゃんはどう(たうとう)今日(ま)はねこみました。早苗も子供なりに心配して「ママ、死ぬといかんで、ねんねしておいな」と云つて、一寸でも起きて来ると心配相に、注意していい子で遊んでますからかわい相です。

桃ちやんのはまだ通知がありませんから、駄目だったのでせう。随分力を落した様で(人生に於ける最初の悲しみ、自信喪失)、いろいろ話をして慰めました。もう、落ちついて元気を恢復した様です。主任の先生も変てこな人で、先日来てのお話をきいてゐると、六人願書を提出して一人通過したが、成績は六人中の下の方であるが、父親がブローカー(ブローカー)で昨年の四月以来学校当局に運動をして、2000円とか寄附をしてゐたからとか、妙な事を云つてゐました。きき様に依つては、うちでも主任教師へのつけ届がなかつたから当然だと云ふ風にもきこえました。で、彼女も学校と云ふものが、本当の学問の殿堂であるよりも、むしろ企業である事や、先生と云ふものへの絶対信頼を疑つて、暫く動揺した様でした。私は又頼りない話手ですが、此のごろ、本の話、友情関係、本を書く人の責任、よみ手の態度、生き方、歴史とはどんなものか、人類への信頼等々、ずつと時々話して来ましたし、桃ちやんもお姉さん何か話して、と暇のある度云つて、其の都度、現実の身のまはりの事件や、いろんなものにふれ話し合つてゐました。ちようど学校の科学の先生に、一人、「お姉さんと同じ様な事を云ふのよ」と云つて、尊敬(敬)してゐる人があつて、其の先生の今日話した話の中で「勤労働員から帰つた皆を迎へて、一目見た時、たつた四ヶ月でお前方がぐどんその者の様な顔つきで電車から溢れて来たのを見て、腹が立つた」と云つて、学生の自分について話した事や、学問を愛する事について話した事等、同じ様な話をする(と云つて、たまに其の先生に逢つて帰る度に、何か心に火を点ぜられた様子で話した事があります。それから時々しか出来ませんが、ネールの歴史等で、随分考へ方が出来て来たのではないか、と思つてます。先日中は矢張り

長倉事件の事を質ねだすので、いろいろ話してとうとう克蘭クビュー、アナトオール・フランスの事など喋りました。そんな次第で、今度の学校の事もすこしくあきらめもつき、本当の医学の勉強を求めるなら、あそこの学校に限らぬ事、要は自分の中に「真実求める心」如何にあるのだと解つたと申しました。とは云へ、本当にかわい相で、夜ねむり乍らすすり泣をする事もあつて、随分悲しいのだと思ひます。あそこが駄目なら、あとはテイ身隊と(伊那工業)臨時教師の二つしか残つてゐないのだ相です。

そんな訳で、桃ちゃんも私も上京の見込はなくなりました。みつちゃんは来るのか来ないのか、何度も夏以来手紙をあげても一度の返事もなく、八ツ穂ちゃんのおしめを、外へまはさぬ様に融通頼んだ手紙にも、返事がありません。又、気が變つたのかも知れませんが。

赤ん坊の下駄が当つた相で、エンギがいいこと。何だかおかしくて笑つてしまひました。丈夫な子供で、下駄を穿ぬいてとんで歩けるといいけれど、弱い子で病氣ばかりされると困ります。男の子なら私に似るでせうし、女ならあなたに似ますからね。あなたはどつちだと思ひます? あつちやん、不二ちゃん、男の方がいい、年とつてゐるから、それにもうあととはわからないから、是非男でなくつちや、と云ひます。それにあなたの方が性質が勝つてきついから、男に相違ないと云ひます。女房がきついと女が多い相です。私は至極やさしくおとなしい方ですから、きつと男の子でせうよ。併し男の子は育てにくい相ですね。まあ其の下駄は大切にしまつておいて下さい。

利ちやんにも手紙を書かうと思ひ乍ら、あなた宛一本かくと思はぬ時間をとつてゐるし、利ちやんに書くのは遂めんどうで、失礼してゐますが、其の中頭痛のせぬ時、必ず書きませう。利ちやん、すこしは澆刺として来ましたか? 利ちやんの手紙はNo.が目茶苦茶で、あつちこつちばらくにして探し出さなくてはなりません。今まで二度もそんな事がありました。

あなたの導き方の効果のうすいと云ふ事の原因については、私の場合丈しか云へませんが、あなたが相手の認識力の段階におかまひなしに、自分と同程度と相手を高く評価して話す事に、重要な欠かんがあると思はれます。相手の認識力の現段階の程度を事実ありのまゝの低さに見る事は、軽蔑でもふそんでもなくて、自分の意志を相手に伝へる時の大切な条件ではありませんか。だからあなたの話にみ力を感じ乍らも、こちらがあなたと同程度の共鳴、批判を持ち得ず理解ににくい。そのために共感も出来ず、退屈に感じて来る。併しあなたは、其の状態を正確に察知せず、理解しないのは理解しようとする熱意の不足に帰して、相手に不足がましい態度と否難ひの態度を示す。そして尚も熱心に押しつけて

来る。そこには理解と共感の楽しみは少くて、二云はれた事を記憶しようとする努力が生れて、—今はわからないけれど、あとで考へてみよう、下手に何か云ふと怒られるから—と云ふき持が生れる丈で、非常に一方的なものになって、相互理解から生じる新しい第三のもの、は出て来ないのではないでせうか。

私があなたの云ふ通りに、若しも其の点が成行してゐたとすれば、それはあなたの其の様なものに対して感じた不まんを、私の相手に感じさせぬ事にあつたのだと思ひます。事実、私はお母さんやなんかに話す時は、特に、相手はこんな話には一寸も積極的な興味を持つてゐないのだと云ふ、ありのまゝの状態をさつし乍ら、相手に応じていろいろな、相手と共通に知つてゐる具体的な話から、—相手が疑問を持つて—即ち積極的に出て来る様にしむけてゆき乍ら、相手に沢山考を云はせるのです。さうすると、お母さんも思はず積極的に考へをまとめては吐き出します。さうして表現にまどつてゐる時は、一寸、一言助け舟を出す、さうしてこちらの思ふ方向に、相手に充分話させ乍ら、問題に引いて来る方法をとりまします。そして充分向ふが其の問題に関心を持つた時を見て、おもむろに（？）あるひは勢急にプランティンションでも黒人問題でも話すのです。そして、でもこれはアメリカ南部丈にあることぢやないわね。私たちの極く身近にも黒人に対する人種的偏見や差別たいぐうがあるでせう」と云ふと、さうだくと云つて、お母さんの思ひつく限り、いろいろと具体的な例を持ち出して来ます。で、私の話したかつた事は、十分相手に納得させ得ない乍らも、相手がそのことについては、相当の関心と意見を持つて来た事を知ります。其の後は勢急にそれをやらせず、いいチャンスを見ては、又その問題へ戻ります。五、六回くりかへせば、相手は充分、相手なりにわかつて来てゐます。

アメリカの植民時代の話は、お母さんが北海道へおぢいさん達が行つた頃の話をした時に、アメリカではかうだつた、と云つてピルグリム・フアーザーのメイフラワー号の話、英国の当時の状態等話しましたところ、それからずつと後に常会で、アメリカの植民当時の話ごく下手に区長から話された時、お母さんは『いや、アメリカ人は始めつからごうまんではない。始め英国から来た最初の人は、本国の庄セイにたまらず、新世界を求めて、アメリカに渡り、けんそん<sup>か</sup>に共同の生活をし様として、其のつもりでやつて来たのだ』とか話して、皆をびつくりさせたとか、中々面白い事をやります。

大金さん達には始めは、知識に対する好<sup>寄</sup>心<sup>心</sup>を起す事丈に専心しました。桃ちゃんには本当の考へ方、自分達の毎日の生活に対する考へ方、生き方、さう云ふものから這入りました。桃ちゃんの工場生活にはいる時など、特に「自分の歴史」と云ふ様なテーマで、自分の毎日の生活が自分を作る歴史で二度とくり返せないものぢやないか、と云ふ様な出だ

して始めた様に思ひます。私の考へ方が本当に正しかつたかどうか分かりませんが、自分の信じてゐる方向に向つて、一生けんめい毎日話しました。さうして、桃ちゃんもしまひには大分いろいろ考へ方を云ふ様になり、工場の生活に於ても、自分の中の二者について何時も考へて行動した、と報告してくれました。桃ちゃんはそれ以来、とても理解力もあるし、いい相手ですけれど、中々話す暇がありません。毎日の宿題やらまとめやら報告やらにキユウ／＼で、あとは疲れて、自分からネールを持つて来ますが、忽ち目ぶたがくつついて、かわい相で責め立てられませんか。

何だか結局、私の自まん話になつてしまつた様で―大へん恐縮です。あなたへの異議と云つたら、そんな点です。もう一ツあなたが相手に殆んど云はせず、自分丈喋ること、たまに相手が見当違ひの意見を吐くと、ゆつくり何故そんな事が出て来たか―を考へず、勢急にピチヤンとやつつたり、いら立つこと等も、いけないのぢやないかしら。相手に下手でも充分語らせる事は、相手の関心呼び起す重要な条件です。それは相手の認識力の程度や方向を知り得る事で、こちらの云ひ度いこと、伝へたいこと、理解させたいこと、即ち種まきの地ならし工作に相当すると思はれます。相手の考へを勢急にやつつたり非難すると、向ふは興味を起すどころか逆の結果に走ります。認識力の相違を正確に計算してかかることが、一ばん大切ではないでせうか。

失礼な事を沢山云ひましたが、要するに、あせつたり、早い効果を望んでは無理だと云ふこと、たとへばプランテーションについての講義にしても、全部あなたの期待通り理解させ様と、早急に望む事はまちがひでせうね。むしろプランテーションは、まつちの火の役目に相当すれば、満足すべきではないでせうか。後は其の火を各自の能力と誠意、熱意に於て解決させるべきではないでせうか。結局、私共は相手に自分の考へを云ひ、相手からもきき、さうして一十一―二でなくて、三にも四にもしてゆく事が本場で、新しいよりよいものを、人間同志の結合が生み出す事が大切なのでせう。

では今日はこれだ。  
相手に自分の考へ通りを押しつける事は、一十一―一ではないでせうか（このいち〔一十一〕の方の「―編者注」が一でなくゼロのときは、一でもまあいい方かも知れないけれど）。

併し、何時も私が大金嬢や桃ちゃん等と話す事の内容は、皆あなたからのものばかりです。あなたから貰つたものを、私流に相手に語つてゐるのだと思ひます。ですから、あなたは溢れ出すものを持つ人で、媒介者、教師の役目ではありません。私は自分から溢れ出すものを持たず、あなたから、あるひは本からそれを得、<sup>(3)</sup>さうしてそれを人に伝へる（あるひは話す）媒介者の役目です。こんな事を書いてゐたら、グンドルフのシェークスピアと独逸精神の中で、ゲートルは

人生に於て努力に最高価値を求めた人で云々、シエークスピアは創造者でゲーテは人生の教師であつたとか、二者の相違を語つてゐたところを思ひ出しました。

さようなら

謙一から幸子あて（一九四五年一月一八〜一九日の記）

一月十八日（木）晴

十五日付お手紙拝受（No.9）。

悪阻に対しては、僕の血でも何でも最善を尽して下さい。要る時は云つて下さい。僕は今、身体の点ではこの十年来最高の条件（尤も目方だけを標準にして）にありますから。去年の秋は若干むくんでゐるのかと思ふふしもあつたが、今は大丈夫です。昨日も八木君と一緒に風呂へ行つて、「菊池さんの体格は思つたよりずつとがしりしてゐるね」と云はれたくらいです。十四貫三百ぐらいあります。戦時浮腫の方は、この頃せいゝ機会をとらへては昼を銀座あたりでたべるやうにしてゐるので、何とか動物性蛋白質もとれます。悪臭いものをたべても、とにかく米のごはんとかぶらから菜っ葉かばかりの食事はこの頃嫌気がさして来たので、外の方がおいしい。おいしいと云ふのはあたらなないが、とにかく何か食べた気がする。夕食がたべられるともつといいものが食べられるのだが、さうすると家へ帰つて火を起すことにさしさはりが出来ます。火は食事に必要でない場合でも暖をとるのに必要ですからね。その点夏から秋は楽だつた。之でもう少し日が長くなればいいのだが。

大寒が近づいて、さすがに冷えはじめました。朝起きる頃、六時半頃は、この間中ずつと撰氏四度か五度だつたのが、この数日は一度か一度以下です。霜はさうひどくなくなつたかはり、水と云ふ水が氷り、お勝手に朝くんだ水があとからあとからこほつて行きます。氷らないのは前の晩に洗つておいた米の水ばかり。水道はさひはひこほらないので助かります。階下の水道はこほつて昼まで出ない。六時半はまだ暗くて、バラ色の指した暁がだんだんその指をひろげて来てすつかり明るくなるのは、七時少し前です。朝がたは、かげぶとん一枚、毛布二枚、どてら一枚の寐床は、この頃空襲にそなへて毛のシャツとワイシャツとズボン下とをつけたまま寐てゐるのに、足のあたりや肩がさむく、そのために五時頃に必ず眼がさめるくらいです。カイロを入れることにしようと思ふのだが、夜寐る時はさう寒くないのでつい面<sup>めん</sup>で、時々しか入れません。東京でこれですから、信州はずつとひどいでせう。防空ブルーの水はもう一尺何寸氷つて、



大きい石をなげつけてもびくともしません。

雨はもう一ヶ月以上もふらないやうな気がします。この一ヶ月半に、曇りの日さへ数日だったのでないかしら。之でまだ太陽熱の暖かさで、炭のない冬を過しやすくしてくれたわけだらうが、そのかはり風邪はひどくはやってゐます。竹中君は一家中で風邪で、出ては休みしてゐるし、古田さんもずっと休んでゐます。松村君もしきりに水ばなをぶらさげてゐるし、西井君のせきばらいもはげしい。でやつぱり僕が一番元気です。芦野理事の風邪欠勤は大分人助けになつてゐるやうです。併しこの頃、夜半の空襲がなくて助かります。

こんなに元気でゐると、あなたの身体の悪いのに対して、自分がわるいやうな気になります。實際原因は僕にあるのだが、もつと直接にわるい気がします。つわりの症状は、戦時浮腫のそれに似てゐますね。どうか気をつけて下さい。昨日は、交詢社の新聞研究会で、外ム省の和田と云ふ人のソ聯の話をききに行きました。外語か何か出て、再三ソ聯へ行き、一番近い所では昨年（一九四一）の春行つて来たのださうですが、実にくだらない話で、二時間損した気になりました。竹中君と外に出て、「つまらんね」「肝腎のことは何にもきけない。あれがソ聯研究の専門家か。第一しやべりかたが気にはない。社会的地位のある連中は大体あんな風な、思はせぶりな、わざとゆつくりした、えーとかあーとか合ひの手の多いしやべり方をするものだらうがね。いらくしてくるよ」「君の話の方がよつぽど面白いよ」「そりや君、僕のアメリカ史は商売ぢやないんだものね」「いや君がソ聯の話をする方が、今日よりはよつぽど面白いんだよ」「さうかもしれない」。三時頃でもさすがに銀座は何か食べ物があります。殊に僕は急いで出て来て昼食をたべてなかつたので、切実な気持でさがしたら、元のコロソピア（尾張町）に一丁余りの列があつて、それにくつついてパンと何か料理をたべました。それから露店（之は三時頃から出る）をずつと見て、かねぼうの横丁で、ひなのた、たきのだんごを四串たべて、栄養上満足しました。ヘーゲルの精神現象学は竹中君に借りて送ります。僕が先に読んでおきます。哲学の勉強のプランは、先便でのべた哲学史をあなたがやつてゐる中に立てることにしませう。僕も来週あたりから、いね子、白田、小田中、この三人を相手の「プランテーション」講義をはじめようと思つてゐます。三人が三人ともタイプがまるでちがふのも、おかしいくらいです。再校のゲラが原価計算やりなほしで、まだもらへないので、原稿でやります。どんな風にすすむことか。僕が講義のやうなことをやつても続いたためしがない。やつてゐる途中、相手の熱がちつとも上つて来ないことを感じると、こちら（僕）もやる気がしなくなるのです。去年の春のアメリカ史もその例。

一月十九日(金) 晴

十六日付お手紙を受取りました。十四、五日のお手紙とガラリと調子がちがつて、僕も戸迷ひ(マヤ)します。正直の所、こんなお手紙は受けとりたくないのです。問題ははつきりとしてゐるのに、またむしかへすだけなのです。あなたが内向的、内省的になる様子は、余り愉快なものではない。どうしてそんなにしつこく同じことを、手をかへしなをかへてむしかへすのか、正直に云ふとこんな手紙をくれるあなたが憎らしくなります。どうして昨日や一昨日のやうな手紙、外向型の、前進的な、創造的な健全な手紙を続けられないのでせう。身体が悪いとか天気が悪いとかは、決定的な理由でない。どうもあなたの考へかたに、二人の生活の前進をはばむ固定観念、固執があるやうです。この種のお手紙を昨秋以来、何度受けとつたかと思ふが、今にしてまだかう云ふ風なことを書かれると、この間中森井さんに対して感じたやうな不快さ、こちらがいくらどんなに云つても、それをすなほに受けとつてくれず、僕の言葉がまるで通じないもどかしさ、石の壁に物を云つてゐるかのやうないらだたしさを、覚えざるを得ません。

この問題で、またまる一日、外の何にも出来ない結果になりました。仕方がないので、おひるに外へ出て銀座で買ひ物して来ました。電車の中や食べ物やの列の中で、持つて行つたオデッセイをもちつとも読む気にならず、あなたの今朝のお手紙のことを考へつづけて憂鬱でした。僕にはどうにも出来ないのです。あなたが僕をそんな風な自分勝手な固定観念で規定して、そのあなたの固定観念の中の僕に対して云ふことを、現実の僕に対して云つてくるのですからね。あなたは僕の云ふことをちつともすなほにきいてくれないのですね。この問題は何度云つたかわからない。もう僕はこんな問題で自分の仕事や自分の社会的生活を阻害されることにはまんが出来ないほどです。こんな態度はまたきつとあなたから批難されるのでせうが、どんなに云つてもわかつてくれようとしないので、すから仕方がない。内省と云ふことは、あなたのきらいな精神作用ぢやなかつたかしら。実際内省なんて云ふことは、人間生活に有害無益です。そんなひまに、どうして外のことを、歴史を理解しようとしなれないのかしら。歴史からはなれた自分のことなんか、すてて了つていいではありませんか。歴史の中にあつてこそ我々の個別は重大な意味をもつが、内省とか自己解剖(夫婦の場合は夫婦の間の心理態様の解剖)とかは一見、自己批判として精神の前進活動のやうに見えるが、さうではない。真の自己批判は、もつと平明で、もつと現実的で、もつと前進的です。真の自己批判は、自己を普遍(普遍)の中へ置くこと、自己を自己から疎外することです。自己を対象化して考察し価値判断することです。所が内省とは、自己の中へ沈潜することに外ならない。

例へば我々の関係について云へば、我々の内部の考察は、我々が外とのたたかひ、前進生活にどうしてもやつて行けない故障が起つた時、前進するためになされねばならない。我々の前進とは何か、我々の世界観努力であり創造努力です。あなたの世界観努力及び創造努力にとつて僕が障害になつてゐますか。障害になつてなければ、それでいいではないでせうか。僕の世界観努力、創作努力にあなたが障害になつた時には、僕はさう云つた筈です。それはあなたの意図でなく、あなたの病気や外的な故障であつた時でも、障害と云ふ点では変りない。その時はさう云つた。所が今はちつともさう云つてゐない。あの時は一時的偶然的だつた。僕はそれが一時的だと知つてゐた。だからこそ疎開と云ふ方法をとつたのです。一時的でないと思つたら別れるとか何とかの方法しかあり得なかつた筈だ。

今僕はあなたを必要としてゐる。今だけではない。あなたが世界観努力、生活努力を誠実にやつてゐる限り、僕はいつでも、永久に、あなたを必要とする。僕の前進、歴史的な生活に、あなたがなくてはならぬ存在だ。これはいい加減に云つてゐるんぢやない。あなたが世界観努力、生活努力、人間的努力をよして別の方向へ行くなら、僕はあなたを必要としなくなる。そしてあなたはきつと常に、さう云ふ人間的努力をなす人だと価値判断したからこそ、僕はあなたと、何物をも押し切つて結婚したのではないか。そして七年間そのことで疑ひや不安をもつたことはない。だから僕は之まで、之からも、あなたとの基本的結合に疑ひや不安をもつたことは全然ないのです。それなのにあなたは、何が不満でそんなに幾度となく、二人の結合を疑つたり不安がつたりするのですか。

あなたが正しい生き方をし、世界観努力、生活努力に誠実である限り僕は、自らの前進のためにあなたを必要とするやうに、あなたの方でも僕が正しい生き方をしてゐる限り、僕をあなたの前進のために必要とするのでせう。そして僕が正しくなくなつたら、あなたは僕を欲求しなくなるでせう。

問題は簡単です。二人が夫々に乃至は一緒に、前進しようと努力してゐる限り、二人の結合にゆるぎはないのです。二人はお互ひを必要とし、お互ひを欲求するのです。そしてどちらかが前進をやめた時、二人の結合は敵対的矛盾になるのです。前進のテンポの差などは問題でない。前進努力をしてゐるか、それとも逸脱後退してゐるか、これが決定的問題なのです。あなたは問題がそんなに簡単に平明であるのを、むりにもつらせ幻想的に誇大展開し、深遠さうにするのです。その点で、あなたのやりかたは森井さんを思はせる。

僕の心情や心理は、あなたが考へるやうに高速でも複雑でもない。ごく普通で、あらはれるまま以上でない。あなたは僕のさう云ふ心情や心理を、知悉してゐる筈です。見通しなんですから。そして僕の心情や心理は、卑俗な狭隘なごみ

の多いものではあつても、基本的には歴史的な普遍的なものへ向いてゐるのであり、その点で信頼してもらつていいのではないかと思ふ。僕がカンシヤクを起したり、押しついたり、女の感情を理解しなかつたり傷<sup>傷</sup>けたり、かんちがひしたり、動揺したり、混乱したり、外へ氣をとられたり、崩折れたりしても、それらは一時的で、今まではすべてさう云ふものを克服し、基本的には正しく生きて来たのぢやないかしら。だからこそあなたは僕を夫とも友ともして愛してくれて来たのではありませんか。

だから或る時僕が、混乱や横暴やかんしやくもあつて、あなたの病氣を僕の前進の障害だと口で云つたり、そのやうに行動したりしたとしても、そんなにいつまでもこだはずに、もつと大きい眼で、もつと大きい心で、信頼しながら見てくれるわけには行かないのでせうか。あなたのこのお手紙に書かれてゐることの大部分は、あなたの幻視でしかないと断言します。僕はそんなにひねくつては考へてゐない。僕はあなたを妻として友として、または姉として妹として、母として娘として無限に欲求し、いつも欲求してゐる。あなたを妻とし友としてゐることをいつだつて天下にはこつてゐる。あなたのゐない所では僕はいつだつて、あなたをほこりを以て人に話す。之は誰にきいてもらつてもいい。

それよりあなたは一体、僕にどうあつてほしいのですか。僕を、あなたの氣分の望むやうな形で、あなたの為<sup>為</sup>にのみ生活するやうにあつてほしいと云ふのですか。あなたに手紙ばかり書き、あなたへ「しぼりかす」でない手紙を書くためにのみ生き、またはあなたのさう云ふ不安や疑ひをなくさせるために、信州へ引きあげるなり、あなたを東京へ来させるなり、とにかく早く一緒に住まうと云ふのですか。併しあなたはきつと、僕がそんな人間、普辺と云ふもの社会的關係と云ふもの歴史と云ふものからはなれ仕事をはなれて、妻の氣分や感情や、占有欲やその他のためにのみ生きる人間であつたら、きつと僕を欲求しなくなるでせう。あなたは僕を八方美人だと云つたり、見栄坊だと云つたり、輕薄、俗物視するけれど、僕はそんなものぢやない。僕はあなたがもつと信頼を以て愛してくるに備する人間だと自分で思つてゐる。あなたを僕が信頼して愛してゐるやうに。

そんな風なことはよく考へずに、哲学史の勉強をやらうぢやありませんか。「プランテーション」を勉強してくれただやうに、哲学も一緒にやらうではありませんか。もつと外界を見ませう。僕をあなたへの態度だけで価値判断するのではなく、社会、歴史、普辺への態度で価値判断して下さい。二人が夫々に普辺、歴史との結合努力に於て生きる限り、二人はゆるぎないのですから。あなたは身体のことも考へねばならない。身体の調子や天氣に氣分を支配され生活を支配されるのではなく、反対に、あなたの精神の積極的な前進努力で、身体の調子や氣分をも支配して行かうではありませんか。